

みんなを考える

地域の公園づくり 協働型社会を目指して

札幌市では、市民、企業、行政が協力し役割を分担し合い、みんなでまちづくりを進めていく「協働型社会」の実現を目指しています。

今月は、地域の方々と区役所が一緒に考えながら進めている公園づくりを紹介しながら、協働によるまちづくりを考えます。

●みんなが公園づくりを考える

市では、造成から長い年月がたった公園を再整備する「個性あふれる公園整備事業」を行っています。現在、東区で計画している二つの公園整備では、市が地域住民の意見を聞くだけではなく、住民同士が話し合います。市は、その話し合いから生まれた意見を取り入れて、公園づくりを進めていきます。

「みかほ会議」を開催

美香保公園（北二〇〇二二東四〇五）は、テニスコートなどがあり、利用者も広範囲にわたる大きな公園です。平成十六年度から整備が予定されており、その将来像について地域の皆さんからたくさんの意見を聞こうと、参加者を広く募集。昨年十二月に「みかほ会議」が発足しました。

まず会議を開催する前に、再整備をお知らせするとともに、利用状況

の把握や利用者の意見収集をするため、いろいろなイベントを実施しました。忍者修行をテーマにした劇遊びや、落ち葉を利用した焼き芋作りなどです。これらのイベントは、利用者がどのような公園を望んでいるか、幅広い年代から意見を聞く機会となったほか、参加を通じて公園に親しみを持ってもらうことにもつながりました。

これまで三回開催した会議では、事前に集めた意見を基に、現状の問題点や課題を整理しながら公園の今後について考えてきました。参加者は「公園をつくることは人をつくり、まちをつくることにもつながります。地域に住む自分たちの手で公園を育てていきたい」などと話し、熱心に議論が続いています。

今後も、雪が解けてから現地で公園を見たり、会議を開いたりして、誰もが利用しやすい公園づくりを目指していきます。



1月に行われた「みかほ会議」の様子(右)。これまで3回行った同会議は、あと2回開催する予定です

昨年10月に市民グループ「ひがしく☆こうえん☆ねっとわーく」との共催で行った「美香保公園をみんなで考えよう～焼き芋大会」。子どもたちをはじめとした参加者は公園を散策して、意見を出し合った後、出来たての焼き芋を食べ、利用者同士の交流を深めました